

# 共和町

八代卓磨

## 1. 概要と歴史

### 1.1 概要

共和町は東西端の距離 20km、南北端の距離 23km、面積は 304.96 平方キロメートルの町である。

町花はミツガシワ、町木はオンコとなっている。

町章は共和町の頭文字である「共」を上部に置き、「和」を円陣をもってあらわしている。「共」は三地区の住民が共に力をあわせて、新しい将来を築く姿をあらわしており、下部の円は共和の沃野と住民の心の和によって大きく発展する象を表している。

### 1.2 歴史

共和町は 1857 年に前田様似、発足常見に徳川幕府が御手作場を設けたのが始まりである。この御手作場では主に、米の栽培が行われていた。1900 年の前半から前田村、小沢村、発足村が生まれた。また 1935 年に国富鉱山を住友金属鉱山(株)が買収したことでにぎわった。そして 1955 年にこの三村が合併し共和町が誕生した。

## 2. 地理、気候

共和町は東経 140 度、北緯 42 度に位置している。

町の中央を東西に流れ日本海に注ぐ堀株川の丘陵台地に農耕地が広がっている。

この農耕地では昔から米の栽培が盛んである。ニセコ山系の湖沼の中でも美しいといわれる神仙沼や日本一のフサスギナ群落のある大谷地湿原などは観光地となっている。

気候は比較的的温暖となっている。こういった温暖な気候が

図 1 共和町の位置



出典：共和町 HP

図 2 共和町全体地図



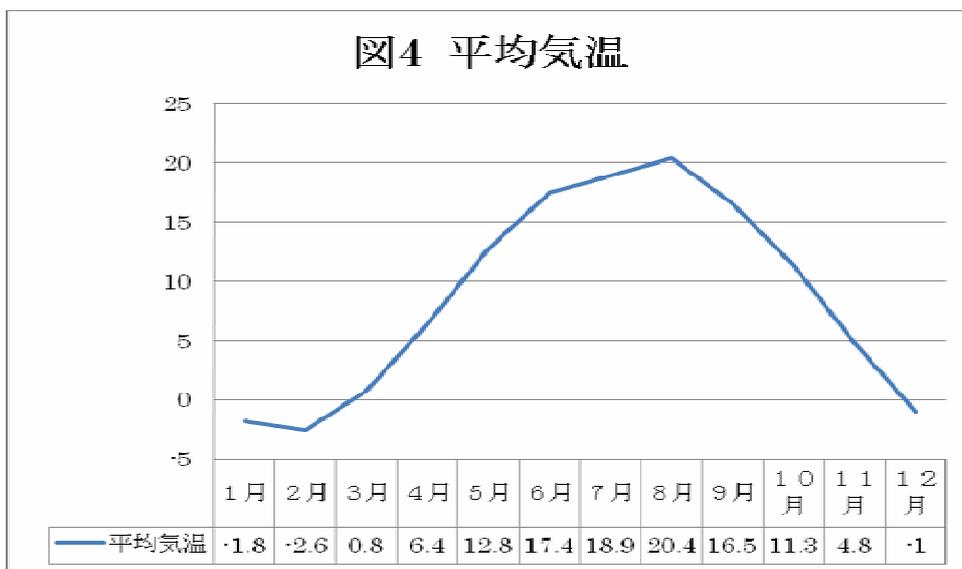
出典：共和町 HP

図 3 共和町章



出典：共和町 HP

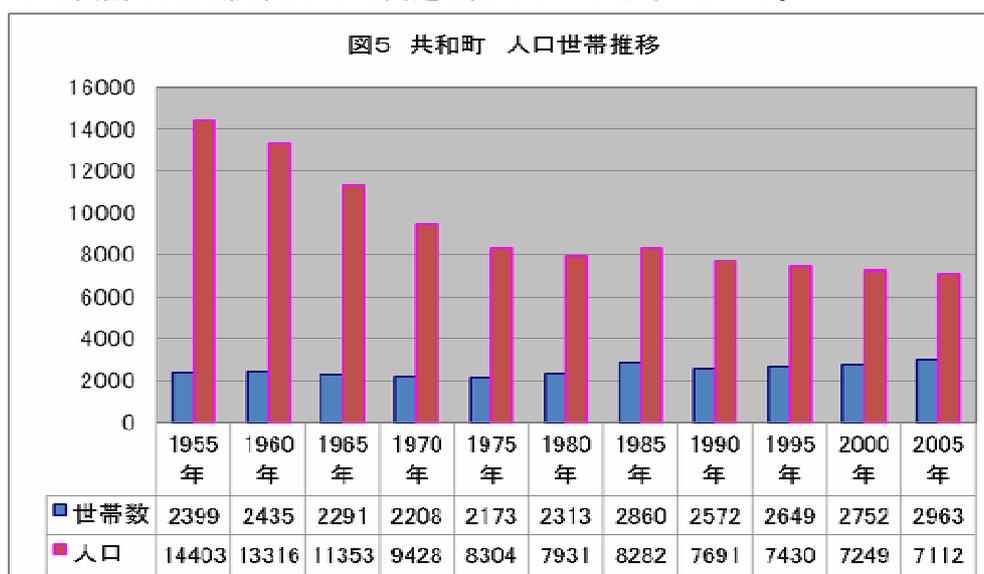
米や果物の栽培を促進しているのだろう。



出典：共和町 HP

### 3.人口・世帯数推移

共和町は1995年に合併したため、1960年からの国勢調査の結果からとなっているが、人口のピークは1965年、世帯数推移は1975年以降増加傾向にある。このことから推察するに、共和町も高齢の核家族や単身家族の増加がみられるだろう。また若者の都会進出などといった要因の人口流出といった問題を抱えていると考えられる。

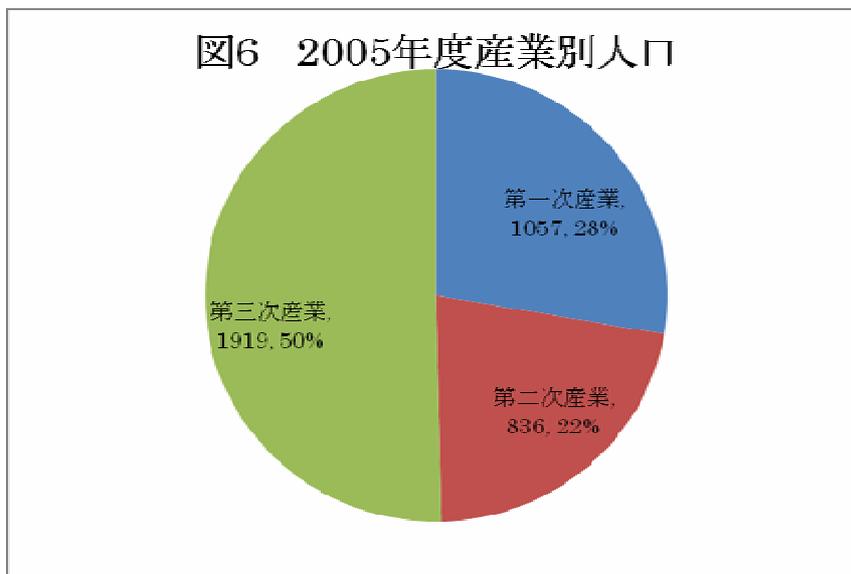


出典：共和町 HP

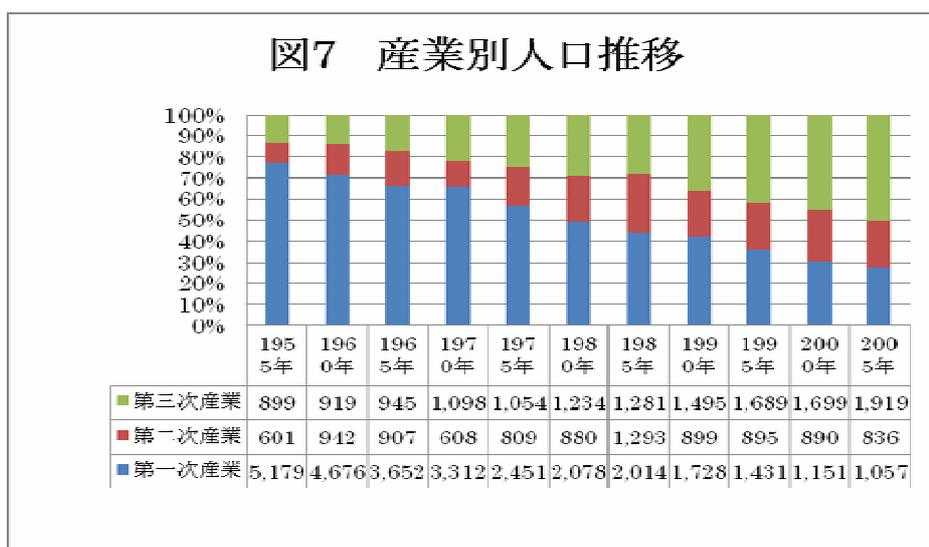
## 4 産業

### 4.1 産業別人口

共和町の産業は、メロンやスイカ、米の栽培など第一次産業が有名であるが、産業別人口でみると占める割合としては約 28 パーセントとなっており、第三次産業が半数となっている。第一次産業は農業に従事しているものが多く、第二次産業は建築関係、第三次産業はサービス業に従事しているものが多い。また、産業別人口推移より第一次産業が急激な下がり幅を見せている。その反面、第三次産業が緩やかではあるが増加の傾向を見せている



出典：共和町 HP



出典：共和町 HP

## 4.2 農業

### 4.2.1 名産品

共和町の名産品といえば「らいでん」というブランド名を持つメロンとスイカであろう。このメロンとスイカは道外にも出荷されており、北海道一の出荷量を誇っている。他にも、札幌大通公園内で販売をされている、とうもろこしの品種であるらいでんスイートコーンも共和町の特産品となっている。また、米どころとしても有名であり、ほしのゆめやななつぼしを作っており、それらをブレンドした、純米らいでんという米も特産品となっている。また、かぼちゃやブロッコリー、ジャガイモの生産も盛んだ。

共和町で農業が盛んなのは共和町のルーツが国営農場として、1857年に御手作場が設置され、農業中心の生活が営まれてきたという歴史的背景があり、加えて共和ダムによる安定した水の供給や気候が温暖であることが理由だろう。

### 4.2.2 共和町の農業に対する取り組み

共和町のメロン、スイカ、とうもろこし、ジャガイモなどといった特産品は高い評価を得ている。その理由として、量より質を求める生産者の思いとともに、スイカやメロンの糖度や品質をはかる光センサーを備えた、国内初のスイカ・メロン集荷選抜施設や、米穀調製貯蔵施設で高品質で均一化した米になるように調製し、低温で貯蔵管理することにより、1年中美味しい米を提供する事ができる機械を備えるなど農業に対する機械投資が町をあげて行われているからであり、高い評価を得ている「らいでん」ブランドの確立にもつながっている。

### 4.2.3 農業生産額と今後の課題

次に、農業生産額内訳から見てみると、野菜と米で8割強を占めている。要因としては、共和町の名産品となっている、スイカ、メロンが野菜として取り扱われていることが大きいだろう。

しかし、農業に対して積極的にブランド確立など町をあげて取り組んでいる共和町だが、若者の都会進出や少子高齢化によって農業従事者の減少が著しい。1980年には934戸だったが、2005年には半減以上の459戸となっている。

共和町の産業別人口では第三次産業が半数を占めているが、共和町は農作物が有名であ

図8 りいでんスイカ



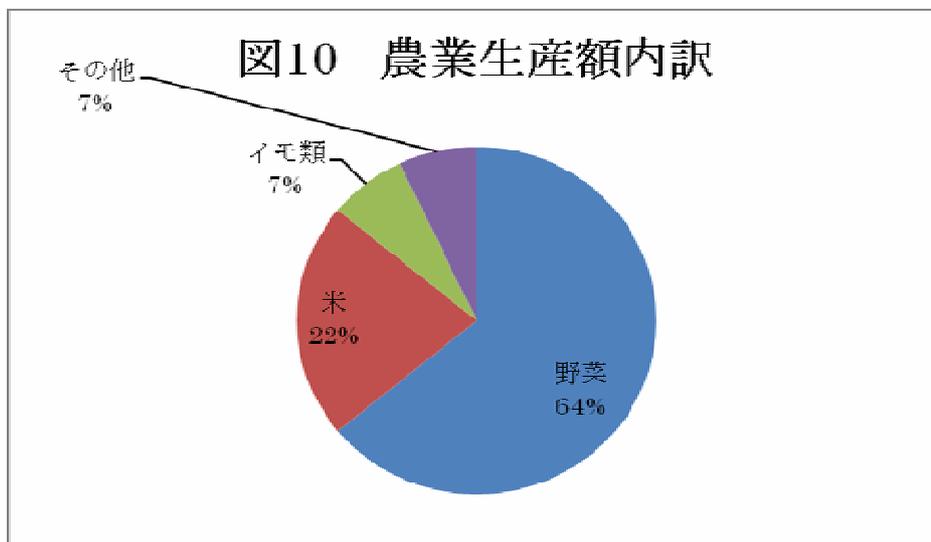
出典：JA きょうわ

図9 りいでんメロン

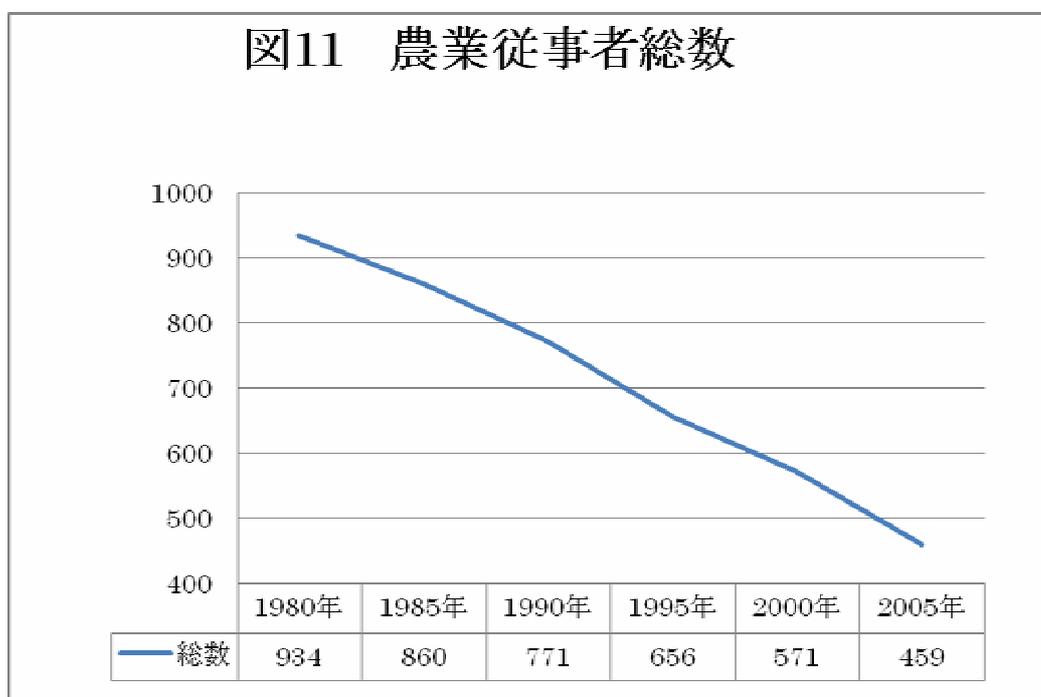


出典：JA きょうわ

り町としても農業を目玉として売り出しているため、現状を打破する政策を行っていくことが必要であろう。その一つとして、ふれあい農園といった農業に触れ合うイベントをより増やしていくことで、Iターンを呼び込むような政策をとることがよいだろう。もちろんUターンを促していくのも必須である。



出典：農林水産省

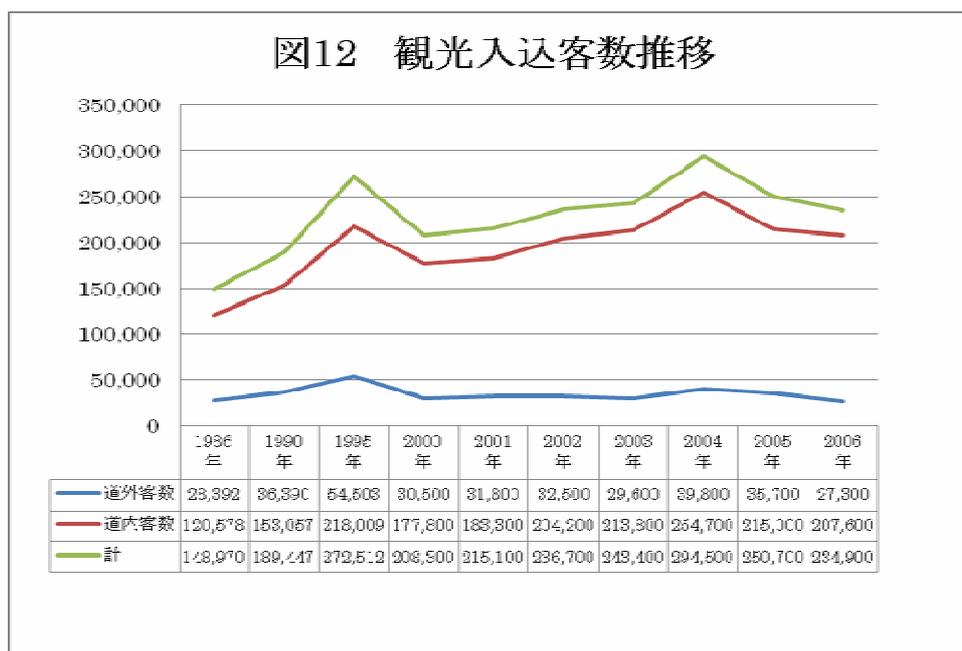


出典：共和町 HP

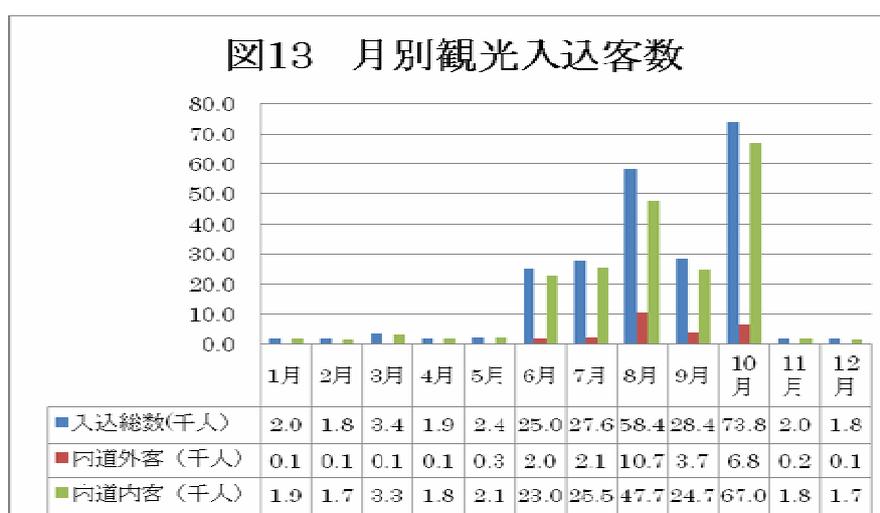
## 5 観光

### 5.1 観光入込客数

共和町の観光客は大半が北海道内の観光客である。また観光入込客数のピークは2004年であり、それ以降は下降気味である。共和町は特産品が多くの人に知られてはいるが、かかし祭りや、さまざまな観光スポットがあるにもかかわらず、その面に関してPRをもっと行っていくことが必須であろう。また、共和町の出身の画家である西村計雄の美術館も観光スポットとして人気が出てきている。



出典：共和町 HP



出典：北海道庁 HP

## 5.2 観光スポット

### 5.2.1 西村計雄美術館

共和町出身の画家、西村計雄の作品の展示や復元されたアトリエが見どころとなっている。西村計雄の作品はフランス政府や、パリ市などが買い取るなど世界に評価されている。また、美術館の周辺に咲いているラベンダーも見どころの一つだ。

図 14 西村計雄美術館



出典：共和町 HP

### 5.2.2 神仙沼自然休養林

海拔 750m の位置にあり、ハイカーに人気のスポットとなっている。ここには多くの湿原や湖畔が並んでおり、中でも神仙沼はニセコ山系の中でも神秘的な沼といわれており、四季によって異なる顔を持つので、何度も訪れたい場所であろう。

図 15 神仙沼



出典：共和町 HP

### 5.2.3 かかし古里館

ここでは共和町の開拓の歴史を学ぶことができる。展示や紹介が分かりやすく書いてあるので家族で訪れてもよいだろう。なお、この場所は旧様似小学校を修復し再利用している。

図 16 かかし古里館



出典：共和町 HP

## 5.3 共和町で行われているイベント

### 5.3.1 共和かかし祭り

共和町のキャラクターである、かかしをメインにした祭りだ。毎年 8 月の中旬に 2 日間行われており、さまざまな催しや、有名な歌手が訪れ歌謡ショーが行われている。この祭りでの最大のイベントは何といても、町民の多くが参加するかかしコンクールである。このコンクールでは、オリジナルのかかしを製作し、出来を争うもので、賞金も用意されている。

図 17 共和かかし祭り



出典：共和町 HP

### 5.3.2 ふれあい農園

一区画 20 坪 12500 円で農業体験ができるという農園である。植え付けや収穫祭、共和町の行事にも参加することができ、共和町の大自然に触れることができる。自然から離れている現代に、このような体験はなかなかできない。大人だけでなく子供と一緒に土を耕して食育にもよいのではないだろうか。

図 18 ふれあい農園



出典：共和町 HP

( 参照 H P )

共和町 HP : <http://www.town.kyowa.hokkaido.jp/>

共和町データインフォメーション : <http://www.town.kyowa.hokkaido.jp/info/info.html>

北海道庁 HP : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

農林水産省 HP : <http://www.maff.go.jp/>